3) 松沢哲郎（1987）：ヒトとチンパンジーの認知機能の発達検査．第3回日本霊長類学会大会，霊長類研究　3:146.
4) 松沢哲郎（1987）：大型類人猿の言語能力．第41回日本人類学会・日本民族学会連合大会，人類学雑誌　96(2).
5) 松沢哲郎（1987）：霊長類の行動発達ー比較心理学的パースペクティブー．第2回日本基礎心理学会フォーラム．
6) 藤田和生（1987）：霊長類における種の認知ー発達とその規定因ー．第3回日本霊長類学会大会，霊長類研究　3:147.
7) 藤田和生・三上章允・長田佳久（1987）：霊長類の運動知覚闕(1)　1歳未満のサルの場合．第51回日本心理学会大会，発表論文集：170.

社会研究部門

加納隆至・大沢秀行・鈴木　晃

研究概要

1) ザイール共和国コンゴ森林におけるピグミーチンパンジーの社会学的研究のとりまとめ

加納隆至・五百部裕[1]

1986年度の現地調査をもとにして，ピグミーチンパンジーの集団間関係，集団内個体間関係（オス間，メス間，ワカメスと他個体間，母子間関係），未成熟個体の社会行動，性行動の発達，造巣行動等の観察資料の取りまとめがおこなわれ，一部は刊行された。

2) オランウータンの社会生態学的研究のまとめ

鈴木　晃

1983年からおこなっているインドネシア・東カリマンタン・クタイ国立公園でのオランウータンの社会学的研究のまとめをおこなった（1987年海外学術調査　代表者田川日出夫・鹿児島大教授）。

3) 志賀高原横湯川流域に生息するニホンザル各群の社会学的資料の蓄積。

鈴木　晃

上信越ニホンザル研究林及び横湯川流域に生息するニホンザル各群の社会学的資料の蓄積をおこなった。

4) アフリカ地域乾燥サバンナにおける狭鼻猿類の野外研究

大沢秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園においてパタスザルおよびミドリザルの野外研究を1984年より続けている。1987年度は採食生態の研究を現地でおこなった（生活史部門・中川尚史[1]）ほか，社会変動の資料の分析をおこなった。

5) 父子判定に基づくニホンザルの繁殖戦略の研究

大沢秀行・光永総子[2]

生化学研究部門で開発した父子判定の技術を利用し，これまで不明であった雄の繁殖効率，および繁殖戦略の研究を始めた。1987年度は，霊長類研究所の若桜放飼群を対象に，交尾期間中終日観察により全ての交尾の記録を取るようにした。交尾行動の解析は引続いておこなっている。

総　説

1) 加納隆至（1987）：未知の類人猿：ピグミーチンパンジーの社会．創造の世界．64:44-69.
2) 森　梅代・宮藤浩子（1987）：霊長類のメスの一生における育児行動および母子関係の変遷に関する研究ー人間の育児行動，母子関係の系統発生を探るー．安田生命事業団研究助成論文集　22(2):153－159.

論　文

1) Kano, T.(1987): Social regulation for individual coexistence in pygmy chimpanzees (*Pan paniscus*). In: Dominance, Aggression and War, D. McGuiness(ed.). Paragon House. pp.105－118.
2) Kano, T. (1987): Social organization of the pygmy chimpanzee and the common chimpanzees: similarities and differences. In: Evolution and coadaptation in biotic communities, S. Kawano, J. H. Connell and T. Hidaka (eds.). University of Tokyo Press. pp. 53－64.
3) Kano, T.(1987): A population study of a unit group of pygmy chimpanzees

1) 大学院生
2) 研修員

of Wamba — with a special reference to the possible lack of intraspecific killing. In : Animal Societies : Theories and Facts, Y. Ito, J. L. Brown and J. Kikkawa (eds.). Japan Scientifc Societies press. pp.159—172.
4) Oi, T.(1988) : Sociological study of troop fission of Japanese monkeys in Yakushima island. Primates 29(1) : 1—19.

報告・その他

1) 森　梅代 (1987) : サルのフィールドから. 1) 母性と父性. 栄養と料理　53(7):116-119.
2) 森　梅代 (1987) : サルのフィールドから. 2) サル道に踏み込む. 栄養と料理　53(8):116-119.
3) 森　梅代 (1987) : サルのフィールドから. 3) 雌と雄と. 栄養と料理　53(9):116-119.
4) 森　梅代 (1987) : サルのフィールドから. 4) エチオピア調査記 I. 栄養と料理　53(10):116-119.
5) 森　梅代 (1987) : サルのフィールドから. 5) エチオピア調査記 II. 栄養と料理　53(11):78-81.
6) 森　梅代 (1987) : サルのフィールドから. 6) エチオピア調査記 III. 栄養と料理　53(12):76-79.
7) 大沢秀行・杉山幸丸 (1987) : ニホンザルの群れ分裂と社会的順位・ニホンザルにおける採食戦略の社会学. 科研費研究成果報告書.
8) Sugiyama, Y., Ohsawa, H.(1988) : Population dynamics and management of baited Japanese monkeys at Takasakiyama. Sociology on feeding strategy of Japanese monkeys. Reports for Grant-in-aid for scientific research : 1—8.
9) 鈴木　晃 (1987) : クタイ国立公園の野生オランウータンの社会生活. モンキー　218, 214:6-13.

学会発表

1) 五百部裕 (1987) : ピグミーチンパンジー (*Pan paniscus*) とアカコロブス (*Colobus badius*) の相互交渉. 第41回日本人類学会・日本民族学会連合大会, 研究発表抄録: 56.
2) 大井　徹 (1987) : 西スマトラにおけるブタオザル (*Macaca nemestrina*) の社会学的研究. 第3回日本霊長類学会, 霊長類研究 3:153.
3) 大沢秀行 (1987) : パタスモンキーの社会変動と雌雄関係. 第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究　3:155.
4) 大沢秀行 (1987) : 霊長類の重層社会の構造. 第41回日本人類学会・日本民族学会連合大会シンポジウム, 家族の起源ープライマトロジカルアプローチの現状ー. 研究発表抄録 : 27.
5) 鈴木　晃 (1987) : 東カリマンタン・クタイ国立公園における大山火事以後のオランウータンの採食行動の変化. 第3回日本霊長類学会, 霊長類研究 3:158.

変異研究部門

野澤　謙・庄武孝義・和田一雄・峰澤　満[1)]

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤　謙・庄武孝義・早坂謙二[2)]

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内, 群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル44群, 総個体数約2,600頭の血液試料について, 35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた。また, 新たにミトコンドリアDNAの多型を標識として加えた。これらデータをもとにして, 統計的検索を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。62年度は下北の群の変異性を定量し, 他群と比較した結果を公表した。

2) *Macaca*属サルの系統的相互関係

野澤　謙・庄武孝義・早坂謙二

ニホンザルを含む*Macaca*属サル各種から材料を採集し, 前項1)と同一の方法によって種内・種

1) 1987年10月1日付で農林水産省へ転出。
2) 大学院学生